

名古屋大学短期日本語プログラム (NUSTEP) 2021年度実施報告

許 明 子

1. はじめに

本学における2週間の超短期日本語プログラム（以下、NUSTEP）は本学と協定を締結している海外の大学に在学している学生を対象に、本学の研究および教育について体験してもらい、将来の留学につなげることを目的として実施されている。

NUSTEPは毎年7月（夏期プログラム）と翌年の2月（春季プログラム）の年に2回実施されているが、2020年度より新型コロナウイルス感染症の影響が続き、夏季プログラムと春季プログラムの両方ともオンラインで実施した。本実践報告では2021年7月に実施した夏季プログラムと2022年2月に実施した春季プログラムにつ

いて報告する。

2. プログラム概要

2021年度の夏季プログラム、春季プログラムともに、日本語クラス及びすべての活動はZoomミーティングを用いた同時双方向の参加型で実施した。コロナ禍で2年目のオンラインプログラムを実施することになり、オンラインによるライブ配信及び双方の交流を取り入れるための様々な工夫を凝らしたプログラムの運営を行った。

2週間の研修プログラムの概要は以下の表1の通りである。

表1 プログラムのスケジュールと概要

〈1週目〉

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
午前	開講式の準備：ネット接続確認、顔合わせ等	日本語1	愛知県の魅力	日本で働く名大OBとの交流	休日	日本語3	日本語5	日本語7
		日本語2	専門講義1、減災館見学			日本語4	日本語6	日本語8
午後	開講式、オリエンテーション	キャンパスツアー、名大生との交流	日本研究Ⅰ：伝統と文化（着付け体験）	サークル紹介：名大生との交流		日本研究Ⅲ：多様な日本社会を知ろう	日本研究Ⅳ：日本で働く	特別講義1

〈2週目〉

	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
午前	日本語9	日本語11	休日	修了プレゼンテーションの準備	日本語13	特別講義2	日本語15
	日本語10	日本語12			日本語14		日本語16 修了プレゼンテーション
午後	日本研究Ⅱ落語と日本語	進学説明会（文系）、専門講義2		オンラインホームビジット	進学説明会（理系）、専門講義3	自主学習	ランチ交流会 修了式、修了アンケート実施

本研修プログラムの最大の特徴は2週間という超短期間に、日本の文化を体験できるだけでなく、世界屈指の研究大学である名古屋大学の教育や研究も体験

できることである。2021年度はオンライン研修でも今までと同様な体験ができるように、ライブ配信型や研修参加者が積極的に参加できる活動を盛り込んで構成

した。これまで実施してきた減災館の見学はライブ配信の形で実施すると同時に、落語会やキャンパスツアーは参加者も積極的に参加できるように設計した。また、理系・文系の専門講義及び特別講義を通して名古屋大学のアカデミック・ライフに触れる機会を設けた。

研修内容の詳細は下記の通りである。

(1) 日本語の授業

日本語の授業の目標は次の2つに設定した。

- ① 日本語のスキルアップを目指すとともに、日本の社会、伝統文化の理解を深める。
- ② 参加者同士のグループワークやグループディスカッションを通して、日本語による情報発信の能力を高める。

オンライン研修ではZoomミーティングのブレイクアウトセッションを活用してたくさんのワークショップを実施した。参加者同士、もしくはTAやボラン

ティアで参加してくれた名大生とグループワークとのグループワークを通して上記の目標を達成できるように進めた。

また、午前中の日本語の授業と午後の日本研究Ⅰ～Ⅳの内容が連携するように日本語のシラバスを構成した。それによって日本語のクラスでインプットされた知識が日本研究へのアウトプットにつなげていくような形で授業を進めた。研修最終日には研修成果を発表する場として、修了プレゼンテーションを実施した。各グループが一つのテーマを決めて調査、分析、考察を行い、その内容を盛り込んだポスターを作成し、プレゼンテーション、質疑応答を行うものである。超短期の研修プログラムの成果とは思えないほど、質の高いプレゼンテーションを行うことができた。

夏季プログラムの授業内容の概要は以下の表2の通りである。

表2 日本語の授業内容

回	授業日	時限	学習内容	備考(午後)
	7月27日(火)	1限・2限	異文化交流イベント 折り紙講座	有松ツアー
1	7月28日(水)	日本語① 8:45-10:15	〔読解・視聴解〕 「ステレオタイプ」を考える	愛知県の魅力魅力
2		日本語② 10:30-12:00	〔読解・視聴解〕 コミュニケーションを考える－日本人と働く職場で－	専門講義
3	7月29日(木)	日本語③ 8:45-10:15	〔読解・視聴解〕 家族を考える①－母娘関係からみる日本－	日本で働く
4		日本語④ 10:30-12:00	〔読解・視聴解〕 家族を考える②－家族の食卓から見る日本－	専門講義
5	7月30日(金)	日本語⑤ 8:45-10:15	〔伝統文化〕 所作・しぐさ－やってみよう－	減災館ツアー・防災講義
6		日本語⑥ 10:30-12:00	〔視聴解〕 情報社会を考える①－こどもとケータイ－	
7	8月2日(月)	日本語⑦ 8:45-10:15	〔読解・視聴解〕 食文化を考える－食の多様性－	落語
8		日本語⑧ 10:30-12:00	〔日本語・日本文化〕 音の世界を考える	
9	8月3日(火)	日本語⑨ 8:45-10:15	〔読解・視聴解〕 方言を考える	特別講義
10		日本語⑩ 10:30-12:00	〔伝統文化〕 言葉遊び－やってみよう－	専門講義
11	8月4日(水)	日本語⑪ 8:45-10:15	〔読解〕 情報社会を考える②－スマホ育児－	特別講義(人文学研究科長)
12		日本語⑫ 10:30-12:00	〔日本文化〕 マンガから見る日本	専門講義
13	8月5日(木)	日本語⑬ 8:45-10:15	〔日本語〕 発表準備：グループディスカッション	進学説明会 自主学習(発表の準備)

14		日本語⑭ 10:30-12:00	〔日本語〕 発表準備：グループディスカッション	
15	8月6日（金）	日本語⑮ 8:45-10:15	発表：修了プレゼンテーション	交流ランチ
16		日本語⑯ 10:30-12:00	発表：修了プレゼンテーション	修了式

(2) 日本研究と文化体験

日本研究Ⅰ：日本の伝統と文化（折り紙から見る日本文化）

日本研究Ⅱ：日本の魅力（留学編・就職編）

日本研究Ⅲ：日本の防災研究（減災館見学およびワークショップ）

日本研究Ⅳ：落語と日本語（落語家 登龍亭幸福師匠による落語会）

上記の日本研究Ⅰ～Ⅳは日本語の授業と関連して日本の社会や文化理解が深まるような内容で構成されている。その他に、名古屋大学の外国人留学生ヘルプデスク運営サークルによるキャンパスツアーやサークル「快踊乱舞」による実演と交流、日本人の家庭を訪問し交流するオンラインホームビジット（オプション）等、名大生のキャンパスライフや日本人の生活について理解を深めるための様々な内容が含まれている。

これらの日本研究と文化体験は従来も取り入れてきた活動であるが、実施方法や進め方を工夫することによって、オンラインでも参加型の活動を行うことができた。例えば、よさこいについて学んで参加者が一緒に踊ったり、落語を聞きながら一緒に笑ったりすることができたのが新しい研修プログラムの開発に向けて大きな収穫だったと言える。

3. 参加者

夏季プログラムの参加者は11名、春季プログラムの参加者は9名であった。各大学からの参加者の内訳は以下の表3、表4の通りである。

表3 夏季プログラムの参加者

大学所在地	大学名	参加者数
中国	南京大学	4
	西安交通大学	1
	同济大学	2
ベトナム	ハノイ国家大学	1
韓国	木浦大学	3

表4 春季プログラムの参加者

大学所在地	大学名	参加者数
中国	浙江大学	4
	上海交通大学	2
	同济大学	1
	大連理工大学	1
韓国	木浦大学	1

4. プログラム修了アンケートについて

本研修プログラムでは最終日の修了式後に参加者によるアンケートを実施している。アンケート調査の内容はプログラム全般に関する総合評価、日本語の授業に関する評価、参加者自身の満足度や勉学意欲、友人に本プログラムへの参加を勧めるかどうか等の9つの質問と改善のための提案等の自由記述によるものである。アンケート調査の結果は、例年のように総合評価が非常に高く、参加者全員がすべての項目において「とても満足」、「まあまあ満足」と評価していた。

最も評価が高かった研修内容は日本語の授業であり、日本語によるワークショップ中心のアウトプット活動が高く評価されたと考えられる。本プログラムを準備するときは、従来の体験型の超短期研修プログラムと同等な内容をオンラインで実施できるか不安もあった。しかし、参加者全員に非常に満足度が高い研修を実施することができたことは非常に喜ばしいことである。

他に、プログラムの改善のための提案や自由記述欄には、「ネットの接続がよくない時がある」「通信状態が時々不安定になる」等のインターネットの接続環境による問題が記されており、オンライン研修の課題が明らかになった。また、参加者自身の日本語力に関する評価も記されており、今後の日本語力の向上や学習意欲につながるような記述も見られた。

5. NUSTEP 運営委員会

本研修プログラムは国際機構の国際化を担う特別プログラムとして位置づけられていることから、国際言語センターおよび国際教育交流センターの両センターの関係者が協力してプログラムを運営している。NUSTEP 運営委員会を通して参加者の選考を行い、プログラムを運営している。以下、NUSTEP の運営委員および担当内容を紹介する。

許明子（国際言語センター教授）：NUSTEP 運営委員会委員長，プログラムコーディネータ

石崎俊子（国際言語センター准教授）：日本語授業補助，TA の管理

巽洋子（国際教育交流センター海外留学部門，特任講師）：学生ボランティアの募集

高木ひとみ（国際教育交流センター教授，アドバイジング部門）：着物講座，ホームビジット連絡調整

学生交流課 NUSTEP オフィス

6. おわりに

本研修プログラムは2016年度より毎年対面で実施してきたが、2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により Zoom ミーティングを利用してオンラインで実施した。コロナ禍の影響が長引く中、学習者はオンライン学習に慣れてきた様子もあるが、一方ではインターネット接続の問題が浮き彫りになり、体験型活動の必要性が増してきたと印象を受ける。このような問題はあるものの、参加者からはプログラムに対して非常に高い評価が得られたことは幸いに思う。

未だに新型コロナウイルス感染症の影響が続いている中、今後のオンライン教育の在り方を模索しつつ、体験型のオンライン研修プログラムの開発に向けてコンテンツの開発を続けていきたい。